



慶應義塾大学ビジネス・スクール

グループにおけるダイナミズム

5

— 集団での意思決定 〈1〉 —

始めに、以下に記述された架空の2つのショート・ストーリーを読んでほしい。このストーリーに記述されたような状況におかれた場合、皆さんならどうされるでしょうか。

10

ショート・ストーリー 1

あなたは、X社の営業主任だが、新卒採用の応援面接官として今年度の面接に多く参画してきた。あなたの会社は、来年度に50人の新入社員を受け入れる予定で、現在二次面接を進めているところである。X社の二次面接は、3人の面接官チームで行う。あなた以外の2人は、購買部門の主任と会計部門の課長だ。二次面接の通過率は、50%を目安とするが、理由をきちんとつければ、上下20%の幅が許容されている。

15

今日は、昼休み後から8人の候補者と面接を行った。すべての面接が終了した後に、早速、可否を決定するためのミーティングが開かれた。ところが、今日の8人の候補者の一人について、他の2人の面接官とあなたとの間でどうも意見が違うようであった。来春に都内の4年制私立大学を卒業する予定のRさんについてである。

20

一次面接におけるRさんの評価は高く、二次面接においても、あなた以外の2人の面接官はRさんに高い評価を与えていた。会計課長は二次面接通過候補者の中でもRさんを2番目に高い評価を与えていたし、購買部門の主任はRさんを一番手にあげていた。確かに、Rさんの態度は面接の標準的な手順に忠実に沿った問題のないものであり、面接官の質問に対してもおおむねそつなく受け答えを行い、他の2人の面接官が下そうとしている高評価も理解できる面がある。

25

しかし、あなたは、Rさんの受け答えがどこか表面的であるという印象を受けていた。例えばRさんは、

.....
本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授 林 洋一郎、鈴鹿医療科学大学保健衛生学部助教 上原俊介、北九州市立大学大学院マネジメント研究科准教授 鳥取部真己によって作成された。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 林 洋一郎、上原俊介、鳥取部真己（2016年3月作成）